

富山市の文化財

第 2 号



サル



シシ



ヌエ



クマ

有^{あり}峰^{みね}狛^{こま}犬^{いぬ}〈有形民俗文化財〉

有峰狛犬は、有峰村(現在、廃村)^{ひがしだにみや}の東谷宮本殿見世棚に置かれていました。通常、社寺の狛犬は 1 対ですが、この狛犬は一社に 4 対もあり^{しゅごじゅう}守護獣としての性格だけではなく、村の食料を食い荒らす動物を調伏するために彫られたとも考えられています。

8 体の木製狛犬は、阿形・吽形で 4 対をなしており各々、サル、シシ、ヌエ、クマと称されています。通称サル・シシの 2 対は、角をもった狛犬と獅子^{しし}の異形の組み合わせで、平安時代の様式を伝えています。通称ヌエ・クマの 2 対は、尾やたてがみ等がなく全体的に彫りは滑らかで抽象的です。

平成 12 年 9 月 19 日に大山町指定文化財(現、富山市指定文化財)に指定されました。現在は、富山市大山歴史民俗資料館(富山市亀谷 1)に展示しています。

竹島家住宅が国登録有形文化財に

富山市下新本町にある竹島家住宅が、平成 22 年 4 月 28 日に国登録有形文化財に登録されました。登録されたのは、主屋、米蔵、道具蔵、長屋門、御成門、外堀、内堀の 7 棟になります。

竹島家は、富山藩の十村役(農村全体を管理監督する役職)を務めた家です。敷地の四周が堀で囲まれおり、主屋(明治29年頃建築)がその中央に建っています。上質な書院座敷と式台玄関をもち、近世住宅の面影を留めています。

米蔵と道具蔵は白漆喰仕上げの土蔵で、米蔵には鶴の鍔絵が施されています。また、白漆喰仕上げの長大な長屋門は屋敷の表構えに重厚感を与え、御成門は殿様来訪の際にのみ開けられたとされています。

屋敷の東と南側に残る外堀は総延長 107m になり、堀の護岸に積まれた石垣の上に建っています。内堀は庭を仕切る堀になります。

現在、富山市内の国、県、市などの指定・登録文化財の件数は 251 件になりました。



竹島家住宅 主屋(右)・内堀(左)



竹島家住宅 長屋門(右)・御成門(左)

平成 22 年度に行った主な事業

1 文化財総合調査事業(緊急雇用創出事業活用)

この事業は市内のそれぞれの地域に残された文化財の現状を把握し、総合的な視点から調査・整理を行い、広く一般に公開することを目的とする事業です。

22 年度は、富山地区(神通川左岸など)、八尾地区、山田地区を対象として、調査を行いました。石仏や土蔵、灰納屋、獅子舞、樹木など、現在公表されている資料の整理を含め、約 1,400 件の文化財を確認しました。



倉垣地区の石仏など

2 文化財標識等の修繕・新設

国・県・市指定文化財と埋蔵文化財などの案内板の修繕と新設を行いました。

(1) 修繕した案内板 今山田の大かつら、大村城跡、若王子塚古墳、「飛びだんご」と「熊野地蔵」

(2) 新設した案内板 向野塚墳墓、六治古塚墳墓(史跡王塚・千坊山遺跡群)、高熊カキ貝化石床



六治古塚墳墓(史跡王塚・千坊山遺跡群)

3 旧水橋郷土史料館の収蔵資料展示など

富山市立図書館水橋分館内の水橋郷土資料展示コーナーで、企画展(年2回)などを行いました。

(1) 企画展(企画：水橋西部公民館)

ア. 「絵図は語る～絵図・地図に水橋の名をさがして～」

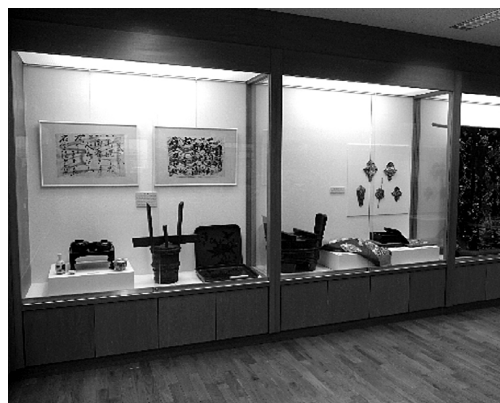
平成22年6月1日～12月12日

大日本陸海全図など34点を展示しました。

イ. 「晴れの時―祝う・着る・飾る―」

平成22年12月14日～平成23年5月末

大黒木彫り像など59点を展示しました。



「晴れの時」の展示風景

(2) 旧水橋郷土史料館見学

22. 4. 30 見学会(水橋中部小学校) 35名

22. 6. 1 見学会(水橋中部小学校) 35名

22. 6. 4 見学会(モンゴル医師研修団・水橋家庭薬協同組合主催) 26名

22. 7. 2 見学会(水橋中学校・三成中学校) 155名

22. 10. 13 見学会(立山町遊学サークル会) 40名



モンゴル医師研修団見学風景

4 国指定重要文化財建造物管理

(1) 浮田家住宅

ア. 入場者数 1,862人(平成23年2月末現在)

① 視察・団体 5件

イ. 行事・イベントなど

22. 6. 6 急須塚祭(煎茶道 松風流)

22. 9. 25 清掃奉仕(教職員厚生会富山支部南
部会員と山室中学校)



テレビドラマ撮影風景

- 22. 10. 2 清掃奉仕(富山神通ライオンズクラブ・太田長寿会合同)
- 22. 10. 31 茶会(藪内流富山支部)
- 22. 11. 3 文化の日のため無料公開
- 22. 11. 14 清掃奉仕(ボーイスカウト)
- 22. 11. 25 テレビドラマ撮影
- 23. 1. 21 文化財防火デー査察

ウ. 維持管理

- ・樹木の剪定、施肥、薬剤散布、雪囲いや除草などの庭園管理業務
- ・主屋の茅葺屋根かやぶきの補修、石置庇いしおきひさし屋根の清掃、建物の雪囲い
- ・板塀と石垣の修理工事

(2) 旧森家住宅

ア. 入場者数 36,256人(平成23年2月末現在)

①視察・団体175件 ②取材など15件

イ. 行事・イベントなど

- 22. 5. 1～9 人形押し絵40年の歩み(人形の緋富会)
- 22. 5. 31～6. 4 14歳の挑戦 岩瀬中学校(2名)
- 22. 6. 22 駐車場除草(県職員0B)
- 22. 7. 31 岩瀬みなとまつりのため無料公開
- 22. 10. 13 駐車場除草(県職員0B)
- 22. 10. 16 箏で楽しむ源氏物語(生田流彩音会)
- 22. 10. 31 第27回岩瀬文化祭<抹茶サービス会場>
- 22. 11. 3 文化の日のため無料公開
- 22. 11. 25 駐車場清掃(岩瀬福寿会 丸福クラブ)
- 23. 1. 26 文化財防火デー査察



修理工事風景



人形押し絵40年の歩み(北日本新聞社提供)



第27回岩瀬文化祭<抹茶サービス会場>

5 文化財保護支援事業

文化財の保存と継承を目的として、次の事業に支援を行いました。

- (1) さんさい踊り開催事業(市指定)
- (2) 中老田のモチノキ保存事業(市指定)
- (3) 八尾曳山ひきやま保存修理事業(県指定)
- (4) 越中の稚児舞ちごまい(熊野神社)保存事業(国指定)
- (5) 西岩瀬諏訪社の大けやき環境整備事業(県指定)
- (6) 絹本着色法華経曼荼羅図修繕事業(国指定)

6 浜黒崎の松並木の環境整備

県指定文化財である「浜黒崎の松並木」の周辺の除草、薬剤散布、枯枝除去を実施しました。雪害予防として、松の雪を落としました。



越中の稚児舞(熊野神社)

8月25日に、神社拝殿前の仮設舞台上で奉納されます。8～9歳の男子が「鉦の舞」など7つの舞を演じます。宝永元(1704)年に、村に病気が流行し、それを治めようとして奉納したのが始まりといわれています。

7 ニホンカモシカの保護

国の天然記念物であるニホンカモシカの保護を行っています。平成22年3月～平成23年2月の滅失件数・出動件数は以下のとおりです。

	22年3月	21年度計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	23年1月	2月	計
滅失件数	3	33	2	3	4	3	2	1	1	0	3	1	1	21
出動件数	3	60	3	13	5	3	2	1	1	0	4	2	1	35

8 指定文化財の整備業務

八尾地域に残る富山市指定史跡などの草刈・雑木刈等の整備業務などを行いました。

- (1) 城生城跡^{じょうのう} 平成22年5～8月
- (2) 井田主馬ヶ城跡^{いだしゅめ} 平成22年9月29日
- (3) 大道城跡^{おおど} 平成22年7月26日
- (4) 尾畑城跡^{おぼたけ} 平成22年7月2日
- (5) 小井波の水芭蕉^{こいなみ} 平成22年9月8日
- (6) 小井波の水芭蕉群生地散策路設計委託

(測量、散策路・畦修繕・水路・案内板の設計)



小井波の水芭蕉

9 富山市博物館施設等連携事業

市内の歴史系博物館5館(郷土博物館・佐藤記念美術館・民俗民芸村・大山歴史民俗資料館・猪谷関所館)が、「富山市の中世・近世」を共通テーマに連携して展示を行いました。期間は平成22年9月11日～12月5日でした。

参加博物館5館をめぐるバスツアーを2回開催しました(9月26日・11月10日)。各回定員は20名でした。

バスツアー当日は、千歳御門^{ちとせごもん}を開門しました。



バスツアー参加者は開門した千歳御門前に集合

10 富山市文化財調査審議会の開催

平成22年12月17日に、平成22年度の富山市文化財調査審議会を開催し、①平成20・21年度文化財関係事業の実績、②平成22年度文化財関係事業の概要について報告し、③市指定文化財について、討議しました。

11 第57回 文化財防火デー

1月26日の文化財防火デー(昭和30年に、文化財保護委員会(現在、文化庁)と国家消防本部(現在、消防庁)が、1月26日は法隆寺金堂の焼損した日であり、1・2月が1年のうちで最も火災が発生しやすい時期であることから、この日に決めました。)にあわせて、指定文化財を保有する施設にて消防訓練や消防設備点検、防災指導等を行う査察が富山市消防局により実施されました。

消防訓練には、町内会や消防団員など地域住民の方々も参加しました。

(1) 消防訓練

- 1月22日 玄猿楼の薬師堂(富山市山田湯) 25名
1月23日 富山市民俗民芸村陶芸館(富山市安養坊)
78名、旧内山家住宅(富山市宮尾) 97名、
鵜坂神社(富山市婦中町鵜坂) 33名、
宝寿院(富山市文珠寺) 32名
1月26日 八尾曳山展示館(富山市上新町) 52名
1月29日 上行寺(富山市楡原) 46名



富山市民俗民芸村陶芸館

(2) 査察など

- ア. 富山地域 富岩運河水閘施設や円隆寺、来迎寺など26ヶ所
(平成23年1月1～26日)
イ. 大沢野・細入地域 帝龍寺、大湊寺など10ヶ所(平成23年1月17～29日)
ウ. 大山地域 大山歴史民俗資料館など3ヶ所(平成23年1月12～23日)
エ. 八尾地域 本法寺など3ヶ所(平成23年1月25～26日)
オ. 婦中・山田地域 玄猿楼の薬師堂など5ヶ所(平成23年1月25～27日)

富山市の文化財案内 市指定・民俗文化財編

※〈有形〉は有形民俗文化財、〈無形〉は無形民俗文化財

1 大久保高砂山曳山〈有形〉

〔所在地〕 富山市下大久保

〔指定日〕 昭和51年12月18日

曳山は、文久2(1862)年に八尾町今町から譲り受けたとされています。ご神体に「高砂の慰と姥」が祀られおり、「高砂山」と称されます。

曳山の構造は、2階建てで、棟までの高さは6.1m、1階部分・2階部分ともに2.5m、1階の前幅は約2mになります。内車形で金具を使わないのは、県内でも最古の曳山の型に相当します。屋根は入母屋造で、正面と背面の軒は唐破風になります。2階には高欄がめぐらされ、その下などに彫刻欄間が施され、安永年間(1775年ごろ)の作と伝えられています。

一時は破損し、町練りも途絶えていたましたが、昭和51(1976)年に下大久保高砂山保存会が寄附を募り復元しました。

曳山の巡行は例年4月第2日曜日(平成22年は4月11日開催)に、大久保八幡宮の春祭りの時に町内を回り、合わせて「高砂山願年坊祭り」も実施されます。これらが、同時に行われるのは大正初期からとされています。



2 さんさい踊り <無形>

〔所在地〕 富山市梅沢町

〔指定日〕 昭和 46 年 3 月 25 日

毎年 7 月 14 日・15 日、梅沢町円隆寺の祇園会の宵に、同寺の境内を中心にくりひろげられる盆踊りで、近隣の子ども達(主に女子)が、ゆかた姿に赤い前掛けをつけて、「サーイサンサイ、ヨンサノヨヨナーイ」とはやしながら、輪になって踊ります。



この踊りの起源は、前田利次が初代としつぐの藩主として、富山城入りをした寛永 16(1639)年頃であろうと伝えられています。はやしことばの中に「もう佐々の世ではない」という意味がこめられているともいわれ、佐々成政のあと富山へ入城した前田氏が、前領主の気風を排すため、領民の間に唄いはやらせたという説もあります。

またこの踊りは、富山藩が設けられてから間もなくの頃、富山城下での盆踊りの夜、金沢藩士と富山藩士とがいざこざをおこしたのがもととなって市街地での盆踊りを厳しく取り締まった。しかし、この踊りだけは女・子どもだけであることから取り締まりから外され、そのため今日まで長く続いたともいわれています。

今日に伝わるさんさい踊りの歌詞は、当時の富山藩における人情、風俗、習慣、方言など日常の暮らしぶりをうかがうことのできる部分が多く貴重です。

3 猪谷の百万石行列 <無形>

〔所在地〕 富山市東猪谷

〔指定日〕 昭和 58 年 9 月 29 日

素盞鳴社の社殿すさのおしやの遷座せんざ行事の時に
行われる大名行列を真似たものです。
遷座行事は 20 年ごとに行われ、社殿
を建て替え、御旅所おんたびしょから御神体ごしんたいを迎える
遷座の先導をしていました。



江戸時代に加賀藩の役人も随行したことから、明治時代以降「百万石」と呼ばれるようになったようです。

明治 36(1903)年以降、社殿の建て替えは行われなくなりましたが、行列は行われており、近年では平成 15(2003)年 4 月 17 日に開催されました。当日は、素盞鳴社を出発し、総代宅を回り、再び素盞鳴社ほうじに戻ります。113 人が 41 種の奉持道具を持って練り歩き、順序は、奴踏みやつこぶの行列、獅子みこし、神輿の順になります。次回は平成 35(2023)年 4 月の予定です。

4 ^{ぬのしり まちなが くわ} 布尻・町長お鍬さま祭り〈無形〉

〔所在地〕 富山市布尻・町長

〔指定日〕 昭和 59 年 6 月 30 日

毎年 5 月 19 日の夜に布尻地内と町長地内との間で 1 年交代に祀った「お鍬さま」を送迎する行事です。お鍬さまは、豊作と家内繁昌の神様で、鍬の先のことです。

布尻神社と町長神社の間をご神体の鍬を納めた神輿が往来し、お迎えする方は、村境まで迎えに行きます。神輿の下をくぐると 1 年中病気をしないとわれています。

この信仰は、江戸時代後期に伊勢神宮外宮の神職御師しんしよくが関わったとされ、三重県、愛知県、岐阜県、長野県にも分布しています。岐阜県の飛騨地方との交流の中で、飛騨街道沿道のこの地区にもたらされたと考えられています。



5 ^{さんようぐう} 蚕養宮〈無形〉

〔所在地〕 富山市八尾町東新町

〔指定日〕 平成 13 年 4 月 25 日

この宮は、天明元(1781)年に蚕を祀った神社として建立されたと伝えられています。県内にはこのような神社はなく貴重です。明治 11(1878)年に社殿を修復した時に下新町八幡社のご神体を合祀し、若宮八幡宮となりました。地元では「かいこみや」と呼ばれています。



毎年 5 月 3 日に、東新町・西新町では「蚕養宮祭」として参拝します。かつては、その年の蚕の「掃立日はきたてび(蚕児を卵から出す日)」を決めるため、蚕業技術員が蚕養宮に集まる行事がありました。

養蚕業によって育まれた八尾の生活文化のシンボルとして、この宮が存在しています。

〈主な参考文献〉 大沢野町 2005『大沢野町史』、富山市大山歴史民俗資料館 2010『さまざまな狛犬の姿と形』、富山県教育委員会 1976『富山県の曳山』、富山県教育委員会 1992『富山県の民俗芸能—富山県民俗芸能緊急調査報告書—』、富山県教育委員会 1988『富山市の「文化財・史跡案内」』

富山市の文化財 第 2 号

発行日 平成 23 年 3 月 31 日

編集・発行 富山市教育委員会 生涯学習課
〒930-8510 富山市新桜町 7-38

TEL (076) 443-2138 Fax (076) 443-2194

印刷 株式会社ヤツオ印刷